

【巻頭言】

謹賀新年

会長 神澤 良明(43回生)

新年を迎え、皆様には益々ご健勝のことと謹んでお慶び申し上げます。あわせて日頃は学友会にご理解、ご協力を賜り感謝いたします。

2015年学友会総会は昨年5月30日(土)に京都ホテルオークラにおいて102名の参加者のもと開催いたしました。

総会の席上で長年にわたって学友会の発展に尽力いただいた故比嘉恒夫氏(沖縄支部・29回生)、矢野雅昭氏(四国支部・45回生)に学友会功労賞を、同じく学友会の運営等に功績のあった漢那憲聖氏(京都支部・42回生)、山内成身氏(福岡支部・47回生)、山口和也氏(大阪支部・52回生)、恒見有紀氏(京都支部・短13回生)にそれぞれ感謝状を贈呈いたしました。

名誉会員に関しては、平成19年度から会長等の役員として学友会に貢献された埜藤眞純氏(奈良支部・43回生)を推戴し満場一致で承認されました。総会の様子は学友だより7月号で詳しく報告させていただいていますが、次回の総会(2017年)は山陰支部での開催が決定しました。

昨年は役員改選の年でもありましたが、図らずも私が理事会の推薦をいただき再選されました。若い方にバトンをつなぐことを目標にしてきたにもかかわらず不本意ながらあと2年間、会長をさせていただきます。それに伴い、平成27年度からは数名の理事を改選して、従来通りの活動を今年度、来年度と執行させていただきます。新しい執行体制で臨みますので宜しくご指導ご鞭撻をお願いいたします。

さて、2015京都総会を取り仕切ってくれたのは実行委員長として皿谷弘樹氏(短2回生)、副実行委員長として青木彰氏(短1回生)と黒田大悟氏(短3回生)の3名がそれぞれの役割を果たし、盛會に導いてくれました。特に懇親會の中で皿谷実行委員長の挨拶がとても素晴らしく感動的でした。真剣に学友会を考えていてくれるのだと実感しました。

私は会長の立場で各支部総会に出席させていただく機会が多いのですが、その支部総会の席に短大卒業生、大学卒業生が多く見受けられるようになりました。これも役員が苦勞をして参加要請をされた成果だと思います。短大卒業生の支部役員が増え、會の世話をしている姿を見ますと、自分の若い頃を思い出します。このように支部行事に、役員と若い卒業生が参加しているのを見ますと、次の世代に学友会を引き継ぐ準備が整いつつあると感じられます。

昨年はテロ等の悲しいニュースも沢山ありましたが、二人の日本人がノーベル賞を受賞したことはとても嬉しいニュースの一つでしょう。

ノーベル医学・生理学賞を北里大学特別榮譽教授大村智氏が、ノーベル物理学賞を東京大学宇宙線研究所所長梶田隆章氏が、それぞれ受章されました。

私はこの素晴らしいニュースでお二人の偉業に初めて接し、自分の知らなかった世界で輝かしい研究をされているのを知り、自分の無知さ加減を羞じました。

お二人とも、日頃の弛まない努力と見識、発想力でお仕事を積み重ねられ、その結果が世界で評価されたのです。

我々の診療放射線技師という仕事も日頃の研究、工夫を重ね、社会に貢献しなければならないという点においては同じではないでしょうか。ノーベル賞に手が届かなくても社会に貢献はできると思います。

私がレントゲン技術専修学校を卒業し就職した時に、よく卒業校を聞かれました。「京都です。島津です。」と答えますと、一目置かれたものです。これは先輩方が築いてこられた名声で、自分が築いたものではありません。これからもこの名声を廃れさすことのないように、京都医療科学大学教員の努力で優秀な卒業生を医療界に輩出し、学術的にも日常の仕事においても、日頃の精進で京都医療科学大学の評価を高め、同窓生が京都医療科学大学で学んだということ、卒業したことを誇れる母校にしなければなりません。

今後の教員、同窓生の惜しまない努力を期待します。

以上

